

【学会報告】

25th Annual Congress of the European College of Sports Science  
— COVID-19 感染拡大による遠隔参加 —

加藤 尊\*<sup>1</sup>



第25回、European College of Sports Science（ヨーロッパスポーツ科学会）が6月1－3日の日程で、スペインのセビリアで開催予定であった。今回は、「Effect of home-based resistance exercise on bone mineral density at femoral neck in young women」とのタイトルにて、自宅で着替える必要もなく簡単に出来るレッグレイズレジスタンストレーニングでは、骨折頻発箇所である大腿骨頸部の骨塩量、骨密度増強は難しいが、腰椎にはその可能性がある、という研究内容である。COVID-19の猛威により不要不急の外出が自粛される中、自宅で過ごす時間が増えることは運動機会の減少や、日光に当たる時間の減少にも繋がる。ヒトは日光に当たることにより、コレステロールから活性型のビタミンDを体内で生成することができる。しかしながら、運動による骨へのメカニカルストレスの減少、カルシウム吸収を助ける働きのあるビタミンD生成量の減少は、骨の健康を維持するうえで大きな障害となる。話はズレるが前年同様に、アブストラクトをHP上から記入し投稿する際、共同研究者を記入する場所が見つけれずにOKを押してしまい痛い目をみた。本研究が私単独となっているのはそのためである。締め切りが迫る中で焦りもあったが成長しない。

Dear Takeru,

**Abstract Submission**

We would like to remind you about the abstract submission for the 25<sup>th</sup> Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS) held in Sevilla, Spain. The deadline for abstract submission is **February 01, 2020, 11:59 CET**. Please note there will be **NO deadline extension!**

少なくとも上記内容のアブストラクトを学会へ投稿した際（1月31日2020年）には、この日程で学会が開催される予定であった。ヨーロッパでは、まずイタリアでの感染拡大が爆発的に広がり、その後を追うよ

受付日 2020.11.21

\*1 朝日大学保健医療学部健康スポーツ科学科

うにスペインやフランスそしてドイツやイギリスで爆発的な感染者数を記録するに至る。記憶に新しい所であり、その間にどのような状況が訪れたかは皆さんもご存じの通りであるが、ここで、時系列に学会の対応を見てみよう。このような事は、今までの私の研究人生に於いて当然初めてのことであり、出来ればもう経験をしたくない事態ではあるが、どこまで続くのか、また、来年度以降どのようになるのかなど、不透明感はぬぐえない。さて以下に3月6日に送られてきたメールの一部を記す。

**Dear Takeru,**

Scientific Board and Committee in cooperation with the local Scientific Committee of ECSS Seville 2020 have accepted 2,074 abstracts to be presented at the 25th Annual Congress of the European College of Sport Science. We are operating in the boundaries of the programme framework, which allows us to have 690 oral presentations filling the 178 oral parallel sessions and 854 conventional print posters in 81 sessions.

アクセプトされたアブストラクトが2074あるということは、リジェクトされたアブストラクトもあった事を考えるとかなりの数の研究者が参加を予定したことになる。本田准教授のお知り合いが前年にアブストラクトのリジェクトにあったという話をお聞きし、リジェクトはあるのだ、と実感していた。本学からは、菅嶋教授、本田准教授もアブストラクトがアクセプトされていた。私を含め3名とも飛行機によって運ぶには少々骨であるが、ポスター発表を選んでいて。昨年度は、現在スポーツ庁長官に就任された室伏広治さんの妹で、本学客員准教授で本学にて複数回公演もされていた室伏由香さんがポスター発表を選択していた。実は、2010年、第15回大会がスペインのバルセロナで行われた際、ポスター発表を選択していたのであるが、その発表の仕方が大変に特殊であり、パワーポイントで作成した1枚刷りのポスターをプロジェクターで写し、一人持ち時間3分程度+質問に2分程度というポスターとは名ばかりのミニオーラルプレゼンテーションもどき、であり、表やグラフの説明もあまりに映し出されている文字サイズが小さく往生した覚えがある。翌年よりECSSにはポスター発表することは止めようと思った次第だ。しかし、2013年、第18回大会がイギリスのリバプールで行われた際には、この悪名高きプレゼン方式はさすがに変わっており、上限3枚のパワーポイントを使用してミニオーラルセッションとしていた。この方法であれば、学会主催側も多く参加者を、また、発表者側にとっても非常に発表しやすく大変に良い変更であったと思う（聴衆も発表者も、また、チェアマンにもほとんど見えない1枚のポスターを映し出すことに比べれば）。ちなみに、この時には、様子見にミニオーラルではなく物理的にポスターを持って行って貼る、ポスター発表を選択していた。細かいセッションに分かれ、セッションごとに指名されたチェアマンの司会進行のもと発表者が2~3分で概要を説明し、合計5分程度に収まるように質疑応答に移る、という流れであった。

さて、コロナウイルス感染者数が爆発的に増加し、今後の見通しが難しいタイミングでもあり、会議を開いているという連絡が複数回メールにて入る。その後、3月31日に学会の10月開催への延期について下記の連絡が入る。

**Dear Takeru,**

We understand that this is a very difficult time for everyone. The Covid-19 virus is causing much human suffering and economic hardship on a global scale. One of the industries most battered is the conference and tourism industry. After careful consideration, and very detailed discussions, we have decided to reschedule the ECSS Seville 2020 Congress from 01 - 03 July 2020 to 28 - 30 October 2020.

この時点では、会場にて学会開催であり、学会の中止やリモート開催などについては言及されていなかった。そして、7月15日の連絡にて、初めてリモートでの開催の可能性の示唆がされ、実際に現地で学会に参加するか、リモートでバーチャルに参加するかというアンケートが取られた。

Dear Takeru,

As you may know, we recently announced that while we expect to welcome many of our valued members and delegates to ECSS Sevilla in person, we will also be offering a 'Virtual Pass' to those who are unable to travel to Sevilla due to COVID-19 restrictions.

You can now register for the congress under the following registration categories:

- **Attend in Person**
- **Attend Virtually**

そして8月11日に、セビリアのECSS学会の延期と、10月28-30日の同日程でバーチャル学会として開催することを通達された。'physical' congress という単語を使っているところが面白いと感じた。物理的に (physical) 行くこともできないため、バーチャルで、という事であろう。

Dear Takeru,

After careful consideration and very detailed discussions, we are sorry to inform you that our Annual Congress in Sevilla will not go ahead as a 'physical' congress due to the serious impact COVID-19 is having on the world. ECSS Sevilla will be postponed until 2021 (dates tbc).

The good news is, we will still host the 25th Annual Congress this year, as a virtual event! On the exactly the same dates, 28-30 October 2020, the "ECSS 25<sup>th</sup> Anniversary Congress" will take place virtually via your ECSS account. Please explore our updated website for more information.



図 1 : 大会HPより

その後、ECSSの各自のアカウントから招待講演はじめ、一般口頭発表や、ポスター発表などを動画ファイルとして送るようにつながりがあった。ポスター発表については、パワーポイント3枚分で、1枚1分の計算で3分間という時間内の動画ファイルを送るようにつながりがあった。締め切り日に余裕を持って動画をアップしたことを記しておく。学会参加費もディスカウントされた金額を入金した。

**Don't forget... your Virtual Pass for #ECSS2020 gives you access to all scientific content from the 25th ECSS Anniversary Congress until the end of this year! You can take advantage of this additional benefit by simply logging into your ECSS account and clicking on 'Join the Congress App'.**

菅嶋教授、本田准教授、それぞれ特色が出た動画ファイルを拝聴させていただいた。菅嶋教授は非常に丁寧なプレゼンテーションで、内容も盛りだくさんであった。本田准教授は、時間内に綺麗に収まるように随分と努力されたであろうことが分かる動画であった。

招待セッションの自転車ペダリングと疲労のプレゼンを見ようと思ったが、映像時間が1時間を超えるようなファイルであったためか、映像がとぎれとぎれで度々止まってしまう途中で諦めた。最初がリバプールの研究者のプレゼンであったため、ブリティッシュイングリッシュは私には聞きやすく期待していたが残念であった。アブストラクトだけを読んだ。自転車部の4年生ゼミ生がパワーマックスを使用してウインゲートテスト中の体幹部、脚部EMGや動作解析による姿勢変化などを分析してるため、アブストから得た内容から具体的なヒントが掴めると良いと思っていたが、この部分でも少々残念であった。ちなみに2名の自転車部ゼミ生は本年度競輪学校1次試験に見事合格している。



図2：バーチャル学会となったECSS2020の大会HP 円題目など

正直なところ、いくら年末まで動画配信ファイルが見れると言われても、実際に学会に参加し、目で見て耳で聞き、質問したり連絡先を交換したり、という事が出来るわけでもなく、学会に参加する重要な部分がかかり削ぎ落されてしまった、という感覚を持っている。再び、自由に国際学会に参加し、様々な研究を目にし、刺激をもらい、そのような場で自らの研究発表に興味を持ってもらった研究者からの質問など受け、ディスカッション出来る近未来を待ち望んで止まない。